

## 2025年度 東北学院大学

## 学校推薦型選抜・総合型選抜A日程第二次選抜

小論文試験 11月16日 10:00~11:00

以下の文を読み、問いに答えなさい。

問1 文章の内容を100字以内で要約しなさい。

問2 あなたにとってよりよいコミュニケーションはどのようなものか、筆者の考えを踏まえながら700字以内で述べなさい。

文化人類学を学ぶ学生として、インドネシアに約一年、アメリカに約二年、滞在しました。こう話すとしばしば、「インドネシア語／英語が話せるんですか？」と訊かれます。このとき、私はこう答えます。「あんまり話せません。でも、コミュニケーションはできます」と。

外国暮らしにおいて、言語は大問題です。相手のことばが分からない、自分のことばが伝わらない、というのは、非常に苦しいもの。どんなに勉強しても、知らないことばや間違えは次から次に出てきます。自分の存在が、非常に幼く、無力になった気分の連続です。

そのような中で出会ったのが、アメリカの言語人類学者チャールズ・グッドウィンの、「コ・オペラティブ・アクション（協操作的行為）」という考え方でした。

彼の著作には、チルという人物が出てきます。チルは脳の一部を損傷し、「Yes」「No」「And」の三語しか話せなくなってしまいました。しかし周囲の人びとがチルに話しかけ、チルは彼らの発言に対して様々な音調で応えることで、彼はたった三語でも独立した話し手として会話に参加している、とグッドウィンは論じます。コミュニケーションは、話し手の言語能力だけでなく、話し手と聞き手の両者が、ことばという記号を共に「操作」し、意味を定めていくことなのです。この考えは、外国で言語に悩む私を勇気づけました。

もちろん、その言語を知れば知るほど染み出す深みもあるでしょう。しかし、ひとや世界と関わることは、必ずしも「正しい言語」を通してだけではありません。相手の発することばの手ざわりを一つ一つ受け止めながら、それを共に操作＝協力すること。それがコミュニケーションの重要な一面なのではないでしょうか。

日本ではよく、英語をはじめとする外国語を話せない、と言う人がいます。もしあなたもそうだったら、代わりにこう言うのはどうでしょうか。「あんまり話せません。でも、コミュニケーションはできます」と。

出典：西浦まどか(2024)「外国語とコミュニケーション」『ユリイカ』第56巻第7号(通巻第821号) p. 318.

## 注意

- 1) 答案用紙には受験学科・受験番号だけを記入し、氏名は絶対記入しないこと。
- 2) 答案は横書き、文字は楷書で大きくはつきりと記し、問題の字数に従い解答すること。
- 3) 答案は1行目から本文を書き始め、問題は書かないこと。

## 2025年度 東北学院大学

## 学校推薦型選抜・総合型選抜A日程第二次選抜

小論文試験 11月17日 10:00~11:00

以下の文を読み、問いに答えなさい。

- 問1 文章の内容を100字以内で要約しなさい。  
問2 文中にある「感情の動員」は、なぜ、またどのように行われるのか、700字以内であなたの意見を述べなさい。

今回の戦争で、ウクライナ側が「感情の動員」に成功していることは確かでしょう。その中では「女性」が巧みに使われ、今回の戦争のイメージを構成する要素となって私たちの「感情」に訴えかけています。しかしこの戦争当初は、それらのことを危惧する声もあった。僕はむしろ、それがいつの間にか、かき消えたことを危惧します。

戦争で女性が果たす役割が大きいというのは、今に始まったことではありません。第2次世界大戦で、米国もナチスも、そして日本も、女性や子どもを使ったプロパガンダの技法を磨きました。

それらの報道自体は「事実」であるかもしれないし、同時に、プロパガンダにもなってゆく。そこで大きな役割を担うのは、受け手の「感情」です。翼賛体制\*を目指した近衛文麿は「内面より参与せしむる」、つまり「心」や「感情」の動員を最大の目標に掲げました。しかし、こうしてウクライナ戦争にかつての日本を重ね合わせて判断することは忌避されています。

ウクライナに「感情移入」しないものはロシアを支持する「敵」と見なされる。なるほど、子どもの死を嘆く母親の映像を見た時、それがウクライナなら「かわいそう」と感情が動かされる。しかしロシア発のニュースであれば、「ロシアのプロパガンダだ」と懐疑するのではないか。

思い出すのは、1937年の第2次上海事変で撮影された報道写真です。日本軍から爆撃を受けた上海南駅の線路近くで号泣する赤ん坊の写真は、一方では同情を呼び、一方ではプロパガンダだと懐疑された。そういう歴史が繰り返されてきました。第2次世界大戦は「宣伝戦」、プロパガンダの戦いだ。当時の報道でもあからさまに語られたように、戦時下の報道というのは、どちらの側から出てくるものもプロパガンダで、それは今も同じです。

そうやって動員された「感情」は、「外国からこういう目にあわされたら困る」に容易に転じます。「感情」は暗黙のうちに、自分たちを「被害者」に位置付けている。この国は近代以降ほとんど、侵略した歴史しか持たない国です。しかし、「日本がロシアのように再び侵略する国になってはいけない」という部分をすっ飛ばして、「怖い」という感情の上に「安全保障」が一見合理的な「論」として語られている。

プロパガンダが錯綜する「戦争」は現在進行形で、情報も乏しく、理性的な判断は難しい。だからこそ、この国のかつての戦争の歴史を検証材料とすることで、最低限、冷静な判断ができます。私たちが内面の参与をした結果、何が起きたのか。あの戦争に重ね合わせることが、今回ほど適切なことはないはずです。

出典：大塚英志「感情に訴え 受け手が参加」『朝日新聞』2022年6月9日（朝刊）、13頁より一部改変。

\*出題者注：第2次世界大戦中の日本の政治体制。軍部の方針を無批判に追認し、国民を戦争に総動員した。

## 注意

- 1) 答案用紙には受験学科・受験番号だけを記入し、氏名は絶対記入しないこと。
- 2) 答案は横書き、文字は楷書で大きくはつきりと記し、問題の字数に従い解答すること。
- 3) 答案は1行目から本文を書き始め、問題は書かないこと。

2025年度 東北学院大学  
学校推薦型選抜・総合型選抜 A 日程第二次選抜

工学部 機械知能工学科

小論文試験（10：00 ～ 11：00）

次の問題文について、600字以内で答えなさい。

いわゆる AI が文章や図画、ソフトウェアのコードなどの生成を行うようになってきた今日、および、さらにこれらの技術が発展すると想定される今後において、機械工学の技術者が果たすべき役割について、あなたの意見を述べなさい。

注意

- 1) 答案用紙には受験学科・受験番号だけを記入し、氏名は絶対記入しないこと。
- 2) 答案は横書き、文字は楷書で大きくはっきりと記し、問題の字数に従い解答すること。
- 3) 答案は1行目から本文を書き始め、問題は書かないこと。

2025年度 東北学院大学  
学校推薦型選抜・総合型選抜 A 日程第二次選抜

工学部 電気電子工学科

小論文試験（10：00～11：00）

次の問題文について、600字以内で答えなさい。

現在、スマートフォンなどを例とする情報端末や、インターネットなどを例とする情報通信技術が、広く人々の日常生活を支えている。これらが今後、電気・電子工学の発展に伴いどのように変化し、これにより日常生活がどのように変化していくことが予想されるかについて、あなたの意見を具体的に述べなさい。

注意

- 1) 答案用紙には受験学科・受験番号だけを記入し、氏名は絶対記入しないこと。
- 2) 答案は横書き、文字は楷書で大きくはっきりと記し、問題の字数に従い解答すること。
- 3) 答案は1行目から本文を書き始め、問題は書かないこと。

2025年度 東北学院大学  
学校推薦型選抜・総合型選抜 A 日程第二次選抜

工学部 環境建設工学科

小論文試験（10：00～11：00）

次の問題文について、600字以内で答えなさい。

昨今、気候変動によるものと考えられる自然災害が多発し、全国で大きな被害を生んでいます。洪水や大規模な河川の氾濫、都市部における内水氾濫などのほか、土砂崩れなども多くの場所で発生しており、各所で迅速な対応が望まれています。

そこで、近年発生した自然災害の中で、環境建設分野に関連すると考えられるものを一つ取り上げ、今後防災・減災を目的に、国や地方自治体が行うべき対策について、技術者の観点から考え、意見として述べなさい。

注意

- 1) 答案用紙には受験学科・受験番号だけを記入し、氏名は絶対記入しないこと。
- 2) 答案は横書き、文字は楷書で大きくはっきりと記し、問題の字数に従い解答すること。
- 3) 答案は1行目から本文を書き始め、問題は書かないこと。

## 2025年度 東北学院大学

## 総合型選抜B日程第二次選抜・資格取得による推薦B日程

## 小論文試験（10：00～11：00）

以下の文を読み、問いに答えなさい。

問1 文章の内容を100字以内で要約しなさい。

問2 「中国」「朝鮮」「日本」といった表記が自然で普遍的なものであると理解することに対して、問題文の内容を踏まえた上であなたの考えを700字以内でのべなさい。

『新しい歴史教科書』（2001年刊）によれば、米の栽培は約6000年前に伝えられ、2400年前に九州に水田による稲作が伝わって以来、稲作農業が広まったとされている。一見、それらの説明と掲載されている地図はとくにナショナリスト的でもなければ、異論を唱えるべき点はないように思われる。実際に、類似した地図や記述は、国や政治的立場の異なるさまざまな歴史家によって書かれている。

そして、まさにそうであるがゆえに、この地図についてももう少し詳しく検討する必要がある。なぜならこの地図が、日本史をめぐる議論において、広く常識として共有されているナショナルな地理的身体を鮮明に描き出しているからである。地図は、「中国」「朝鮮」「日本」と記された三つの地域における稲作技術の伝達の経緯を示している。諸地域間に明確な境界線は引かれておらず、最北端に位置する北海道などは地図上から消えてしまいそうである。しかし、2000年以上も前に起こった出来事について記述しているにもかかわらず、「中国」「朝鮮」「日本」などの国名が用いられることが時代錯誤であることについての説明は見られない。

たとえ教科書の執筆者たちが、この点について問われたとしても、地図に用いられている国名が2400年前に該当する地域を表示する際には存在しなかったことを認めるのは間違いのないであろう。おそらく執筆者たちは、たんに学生たちが認識し、記憶しやすいように近代の国名を用いているに過ぎないと答えるであろう。しかし当然のことながら、地図に記載されたそれらの国名は、今日のものとまったく同じではない。たとえば地図上には朝鮮半島の南北の分断は記されていないし、台湾は国家であるとは記されていない。仮にもしそのようなことが記載されたとしたならば、人々は困惑したり、おもしろがったりして、なぜ現代社会の政治的な分断が古代史の地図に記されているのだらうと疑問をもつであろう。つまり私たちは、朝鮮半島の南北分断や台湾をどう見なすかという判断が、近代的・政治的・人為的であるということを容易に理解しているのである。

しかしながら実際には、この地図の場合がそうであるように、ほとんどの日本人は幼いころから、「中国」「朝鮮」「日本」といった表記が自然で普遍的なものであると理解することが当然とされている。そして、それらの名称を6000年前の世界に投影することを疑うことはない。したがってこの地図は、一般的に共有された、影響力のある歴史観を映し出していると言える。つまり、東アジアの歴史と中央集権化された大国の歴史とを同等のものに見なし、それらの大国が歴史のなかで永続的に存在しているとするような考えを反映しているのである。

出典：テッサ・モーリス＝スズキ（2009）「わが国固有の領土——日本史における境界とネーションをめぐるイメージ」『ナショナリズム論・入門』（大沢真幸・姜尚中編）、有斐閣、pp.92-93より一部改変

## 注意

- 1) 答案用紙には受験学科・受験番号だけを記入し、氏名は絶対記入しないこと。
- 2) 答案は横書き、文字は楷書で大きくはっきりと記し、問題の字数に従い解答すること。
- 3) 答案は1行目から本文を書き始め、問題は書かないこと。

2025年度 東北学院大学  
総合型選抜B日程第二次選抜

工学部 電気電子工学科

小論文試験（10：00～11：00）

次の問題文について、600字以内で答えなさい。

近年、テキストの作成、自動運転、顔認証などの例に挙げられるように、人工知能(AI)が使われる技術の発展が目覚ましい。人工知能が今後、電気・電子工学分野とどのように関連して、活用されるかについて、あなたの意見を具体的に述べなさい。また、この関連が我々の生活に、長所、短所を含みどのような影響を与えるかについて、あなたの意見を具体的に述べなさい。

注意

- 1) 答案用紙には受験学科・受験番号だけを記入し、氏名は絶対記入しないこと。
- 2) 答案は横書き、文字は楷書で大きくはっきりと記し、問題の字数に従い解答すること。
- 3) 答案は1行目から本文を書き始め、問題は書かないこと。

2025年度 東北学院大学  
総合型選抜B日程第二次選抜

工学部 環境建設工学科

小論文試験（10：00～11：00）

次の問題文について、600字以内で答えなさい。

建設現場において、安全管理は最も重要な事項であり、いくら強調してもしすぎることはないほど大事なことです。道路工事、トンネル工事、橋梁建設工事、建築物の建設工事などにおける事故の発生は、安全管理員の注意不足、感染症や熱中症による不測の事態の発生、作業員同士のコミュニケーション不足など、さまざまな要因が考えられます。

そこで、あなたがある建設現場の責任者であると仮定した場合、どのような安全問題に対してどのような対策を施し、どのような効果を期待するのかについて、自分の考えを述べなさい。

注意

- 1) 答案用紙には受験学科・受験番号だけを記入し、氏名は絶対記入しないこと。
- 2) 答案は横書き、文字は楷書で大きくはっきりと記し、問題の字数に従い解答すること。
- 3) 答案は1行目から本文を書き始め、問題は書かないこと。